

2026年1月 (No.439)

主な内容とページ

「技術開発」から「競争力確保」に焦点が移るラピダス.....	1
技術開発から市場開発、収益確保へ	3
JS ファンダリの教訓.....	4
半導体事業、政府関与、大手参入そして失敗の歴史	4
半導体企業の経営は属人的.....	5
ラピダス、民間は誰が出資？	5
三位一体.....	7
宇宙開発、原発そして半導体 (SRL だより)	10

「技術開発」から「競争力確保」に焦点が移るラピダス

先端半導体プロジェクト、ラピダスは、27年の量産を目前にして新局面を迎えている。

1. 膨大な国家補助の是非、事業化成否の議論、難航する民間出資など議論が尽きないラピダスだが、後戻りは出来ず、いかに成功、存続価値を見出すか。焦点となってきた。
2. ラピダスの活動の中心は研究・技術開発から顧客開発、量産に移行していく。リスクを伴う先行投資からコスト第一、利益確保の真逆の関係でもあり、競争力、存在意義の確保が問われる。
3. 日本の半導体は技術力では勝っていたが、商売(顧客志向)で負けたという苦い教訓を繰り返してはならず、ラピダスを立ち上げた意義が問われかねない。

宇宙開発、原発そして半導体 (SRL だより)

半導体は、産業の中心的存在になり、国の競争力や安全保障にも深く関わる傾向が強まっている。投資額は兆円単位と巨大で、投資回収のリスクも高く、民間では手に余り、国家支援が常態化しつつある。これは、他の分野、例えば宇宙開発や原子力開発でみられたのと同じ動きだ。

宇宙も原子力開発もあらゆる技術が結集された巨大大規模技術の領域で、その可能性は夢を実現し、無限の進歩をもたらしてくれる。ただし、巨大大規模であるがゆえにその全容を理解することは難しく、人類では制御不可能、未踏な部分も含まれる。それは今後の発展を示す一方、政治の介入、利権を生じさせる。

これら三分野は、国家の関与だけでなく、どこかでつながりが出てくるかもしれない。テスラの開発会社はスペース X という宇宙開発会社も経営、先端半導体へも関心を示していると伝えられている。あと 10 年もすれば、エネルギー、通信、それから宇宙も含めた活動は、まったく異なったものになるかもしれない。夢を与えてくれる。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。 2026 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2026 年 1 月 (毎月 1 回発行) 第 37 巻 1 号 (通巻 439 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

© (株)SRL 2026

SRL Monthly Report

January 2026, No.439

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円 (税込み)